



「つながり合う教育」へ確信 200名を越える参加で成功

26日(金)東京教研全体会(荏原文化センター)は東京各地から教職員、品川区民の参加者が200人を超え、教育を変えたいという熱い思いに満ちた集会となりました。

鋭い切り込みと根本を変える解決策の提起 世取山氏講演

新自由主義的教育改革の目的は公教育を全体としては下げ、従順な働き手を多教育すること。職業・進路の決定は18歳から15歳へ。教師に対しては、教育方法をマニュアル化、達成度の評価、競争体制、賞罰を強いる。こうした教育の中で子どもは、いじめ、不登校、校内暴力、自殺に進んでいる。競争のプレッシャーの中で、自分の心の中に自分を見つめ、励ます“自分”が育たない。こうして新自由主義教育改革を全国

に先駆けて実行してきたのは石原都政だが、3期目の現在、失速気味である。

ではどうするのか。新自由主義的教育改革の駆動力そのものにメスを入れよう。働く者の雇用を安定させよう。積極的雇用創出政策と教育政策との結合。保育、福祉、介護、教育への雇用創出とそのための教育との連動。そのために革新都政の実現を私は目指している。

※世取山氏は統計数字や「国連子どもの権利委員会所見」などの資料をもとに、東京・日本の子どもたちの状況を多くの指標から説明しました。

品川の現実と、闘う熱い思いを訴えて

地元、品川支部執行部は品川区の教育行政の実態を寸劇で告発しました。熱演に爆笑、そしてトップダウンの内容に驚きと怒りの声があがりました。「市民科」の標ぼうするものと現実とのギャップ、小学校の理科専科の混迷、英語での朝会など、他区の教師にとって、唾然とする内容だったのです。

まとめとして支部委員長があいさつ、対抗軸として支部教研で楽しく学び、仲間を増やしてきたことにふれ、今回の教研集会もがんばりましょうと呼びかけました。

写真上 「市民科の実施でいじめ、非行は起こりません。」

写真下 訴える中里支部委員長

(裏へ続く)



「だるま劇場」の子どもたちも熱演

全体会のオープニングには、品川と町田の子どもたちが参加する「だるま劇場」が会場を和ませました。最初は「トレロ・カモミロ」の歌と踊り。会場は手拍子で応えました。続く詩の群読は、友だちがいてくれることの喜びをうたいあげ、感動の拍手をあびていました。



写真 トレロ・カモミロのフィナーレ

続 「10月アンケート」より

Q 漢字ステージについてお聞かせください

選択肢

- ① 多すぎると思う
- ② 早めに教えることはよい
- ③ その他

① 漢字をギューギューつめこんで、私も子どももくるしい、つらい。ごめんなさいと思う。

② 中学年では、385文字でも日々の漢字学習でしっかり指導しようと思ったら、多くて大変です。200文字増分は家庭でやれということでしょうか。

③ 中学生でも漢字を使う力が低下しています。

④ ドリルを使えず、不便。せめて教科書通りの順番にしてほしい

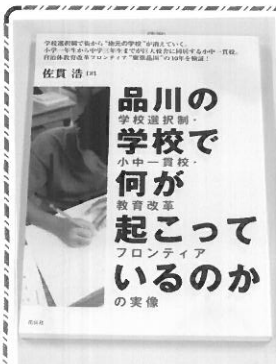
⑤ 子どもの実態に応じていないと思われます。学年分をきちんと習得させることが大切ではないでしょうか。

⑥ よくわからないが、国語の学習は漢字だけではないと思うので他の学習の支障には、なっていないだろうか。

⑦ 漢字ざらいになる。

⑧ 覚える数が多すぎて定着していない。

◆ほとんどの方が⑤を選択しています。子どもに負担が大きく効果が上がらないという意見を書いています。みなさんが子どもの立場からの視点でこの問題を深刻にうけとめていました。②、③を選んだ方も、疑問を提起しています。



品川の「教育改革」の実態を追究してきた佐貫浩さんが、告発第1弾として発表した、「ブックレット」(著者の弁)です。

- 構成 第1章 小中一貫校の検証(施設一体型の教育学的根拠の検討)
第2章 学校選択制度の検証(選ばれる学校の固定と分離)
第3章 品川の教育改革の「理念」と「手法」(トップダウン)

「品川の学校で何が起きているのか」 佐貫 浩著 花伝社

※定価 1300 円ですが、支部経由なら 1000 円になります。